

庚午の家

正会員 吉 田 豊 君

壁式構造による3層分のボリュームで計画された非常にコンパクトな住宅。1階の大部分はアトリエ、2、3階が住居の主室で構成されている。この主室部の躯体は2層分を一体で打設してあり、そこへ挿入された間仕切り壁や3階の床などを木造とすることで、小さな吹抜けやスリットなどが可能となり、実に伸びやかで清々しい内部空間を生成させている。ここでは断面を最小にした細い木部材をそのまま表し、繊細で柔かな表情としてある。造作家具や建具、生活のための机や椅子等と同等化した素材や質感などの試みは、小住宅ではあるが故に有効な手法である。また特筆すべき一方は、周辺環境を読み解きながらの開口部の扱いである。特にアルミサッシによる大小の開閉可能な窓のディテールは、既製の部材に多少の加工を施し、強化ガラスを貼付け、実にシンプルに納まっており、フレームを省いた単純な嵌め殺し部と共に、打放しコンクリート面との対比など見事である。

(「作品選集 2013」選評より)